

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19604003

研究課題名（和文） 定住ラテンアメリカ人の Chagas 病疫学調査と輸血感染予防対策

研究課題名（英文） Epidemiological studies of Chagas disease and prevention measures by the transfusion from Latin American in Japan

研究代表者

三浦 左千夫（MIURA SACHIO）

慶應義塾大学・医学部・助教

研究者番号：30051858

研究代表者の専門分野：寄生虫学

科研費の分科・細目：国際保健医療研究

キーワード：在日ラテンアメリカ人、Chagas 病、ブラジル日系社会、在日日系ブラジル人、献血、輸血感染、T.cruzi 抗体検査、虫血症

## 1. 研究計画の概要

- (1) 在日ラテンアメリカ人による Chagas 病の献血輸血による 2 次感染予防対策に向けての国内、ブラジルの日系社会での本疾患の感染状況を抗体検査、アンケートなどを通じ得、献血現場での献血自粛呼びかけ。
- (2) 抗体スクリーニングの必要性を訴える。
- (3) 国内外日系ブラジル人社会での本疾患に対する啓蒙活動。
- (4) 国内医療機関、赤十字献血ポストなどでの本疾患に関する啓蒙活動。

## 2. 研究の進捗状況

- (1) 国内外ともに日系ラテンアメリカ人の社会に虫血症を含めて、Chagas 病感染者が多数存在することが明らかとなり、献血現場での、抗体スクリーニングの必要性、献血自粛の呼びかけなどの啓蒙活動が、ラテンアメリカ人が集住する地域、群馬、茨城、栃木、長野、岐阜、愛知、滋賀、で外国人支援を行う NPO 法人と共同で行っている。
- (2) 当初関心を示さなかった在日領事館なども関心を示す様になり、最近では移動領事館業務のなかで、健康生活支援業務の一環として、本疾患の啓蒙教育を行っている。
- (3) 国内のラテンアメリカ人集住地域の医療機関でも Chagas 病についての情報がほしい、抗体検査を実施してほしいなどの要望も増えている。
- (4) ラテンアメリカ人集住地域の赤十字献血ポストでの対応（献血自粛）に関しての啓蒙研修も増加した。

(5) 献血現場のみならず医療機関での病原体 *Trypanosoma cruzi*(*T.cruzi*)抗体検査に必要な検査が依頼された。

(6) 抗体スクリーニングキットの開発を行い、海外で用いられているものと遜色のない結果を示すキットの試作を行った。

(7) 抗体陽性者（病原体慢性キャリアー）における虫血症の検出が出来る、抗原チェックシステムの検討に入った。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

- (1) 在日、在外日系人に対する本疾患に関する啓蒙活動は、メディア媒体を通じてかなり相談者が増え、ラテンアメリカ人集住地域の医療機関からの鑑別診断依頼件数も増加し、新たな虫血症患者も検出された。
- (2) ラテンアメリカ人集住地域の医療機関としても感心を示し始め、本疾患に対する医療サイドの対応にも変化が見られてきた。
- (3) 輸血細胞臓器移植により感染可能な本疾患に対して、献血業務を執り行う、日赤の献血現場からの、本疾患に関する情報の提供を求められたことは、ラテンアメリカ人の献血自粛を呼びかけるためには重要な意義があった。
- (4) ラテンアメリカ人集住地域の医療機関が本疾患に関心を示し始めたことで、単なる感染の抗体検出キットの精度向上および、慢性感染キャリアーの検討のためには抗原検出キットの検討が必要となった。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 本疾患に関する啓蒙活動は今後も NPO 法人、在日公館の活動に協力する形で継続する。

(2) ラテンアメリカ人社会との接触は NPO 法人の URL、メディアを通じ啓蒙研修などへの呼びかけを継続する。

(3) 現在までに得られた情報を基に更なる詳細な啓蒙データの関係機関との共有を目指す。

(4) 赤十字献血現場での汚染血液提供自粛啓蒙に努める。抗体スクリーニングの導入検討を求める。

(5) 献血者に対する現行のチェックリストの改訂に提言を行う。

(6) ラテンアメリカ人集住地域の医療機関に関しても本疾患に関する情報提供を行うと同時に、血清抗体検査を実施する。

(7) 抗体検査と同時に医療機関からの有症者には抗原の有無をも検討する必要があり、抗体スクリーニングキットの精度向上とともに抗原検出キットの開発にも着手する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

三浦左千夫・竹内勤: 論文名: Chagas 病に対する臨床医の対応と、日系人、非日系人との意識の差; 臨床寄生虫学雑誌、19巻1号、65 - 68、2009 査読: あり

岩田学、野崎司、山口雅臣、長倉貢一、堤寛、肥後廣夫、三浦左千夫: 大動脈2尖弁による心不全を発症した慢性 Chagas 病の1例、臨床寄生虫学雑誌、19巻1号、62 - 64、2009 査読: あり

[学会発表](計2件)

三浦左千夫、竹内勤; 在日ラテンアメリカ人の慢性シャーガス病と2次感染予防; 第58回日本感染症学会東日本学術集会 東京、2009 - 10月30日

S.Miura, T.Takeuchi: Chronic

*Trypanosoma cruzi* infection among Latin American immigrants in Japan; 17th International Congress for Tropical Medicine and Malaria; Oct- 1 -2008; Korea

[その他]

<http://portalwebnews.com/index.php/2009/12/15/medico-que...>

<http://portalwebnews.com/index.php/2010/3/17/doenca-tipi...>

<http://www.consbrasil.org/consulado/>

<http://noticia.clicksjp.com>

<http://sites.google.com/site/sitenposabjapt/home/projecto/caravana/2009>